



陶史の森からのご案内

バードウォッチング（自由参加）

9月27日（日）、10月25日（日）

午前9時～11時

※集合場所は林泉の池堤防です。

きのご教室（要申込）

10月18日（日）午前9時～11時

※集合場所はウッディードームです。

秋の彼岸が過ぎるころ、園内の草陰にウメの花に似た白い花が咲きます。フウロソウ科フウロソウ属の多年草「ゲンシヨウコ」です。
茎は地を這うように横に広がり、先端が立ち上がります。夏から秋にかけて、葉の付け根付近から伸びた花柄の先に、1センチメートルほどの花を2、3輪付けます。5枚ある花弁には淡い紫色の筋が走り、先が少しへこむものもあります。咲き始めは1本に見える雌しべの先が、開花してしばらく経つと5つに裂けるのが特徴です。花の色は、東日本

では白色、西日本では淡い紅色、日本海側では紅色が多いとされていて、陶史の森では白い花が見られます。
古くから下痢止めや胃腸病に効能がある薬草として有名で、煎じて飲むと「すぐに効果が現れる（現の証拠）」ことが名前の由来とされています。「日本三大民間薬」の一つとして知られ、若い葉は食べられますが、トリカブトなどの有毒植物に似ているため注意が必要です。
園内で見かけたら採集はせず、秋風にそよぐきれいな姿をお楽しみください。

現の証拠 ーゲンシヨウコー

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)

その原点ともいえる私立小谷陶磁器研究所について、下石町で製陶業を営み同所を設立した安藤知山と陶磁器デザイナー日根野作三を軸に、同所の活動の様子などを紹介しています。
10月10日には、関連講座「小谷陶磁器研究所 クラフトデザインと美濃焼」を、下石陶磁器工業協同組合 大会議室で開催します（要申込）。ぜひご参加ください。

現在、当館の出張展示「美濃クラフトデザインの原点 小谷陶磁器研究所」を、美濃焼伝産産業会館で開催中です（11月23日まで）。
本展のテーマの舞台である戦後の美濃焼産地は、復興から高度経済成長期にかけて、機械化・量産化が加速した時代でした。これに対し、手仕事によるものづくりを見つめ直す作り手が現れ、クラフト運動を展開していきます。彼らが目指したのは、暮らしを彩る意匠と実用性を兼ね備えた温かみのある器によって、人々の生活を豊かにすることでした。

第29回
戦後の下石町から盛り上がった
クラフトデザインの動き



▲詳細はこちら
(ホームページ)

